

# ITU-R SG 7 WP 7A 会合(2024年9月) 報告書(案)

## 1. 会合の名称

ITU-R Study Group 7(SG 7) Working Party 7A  
(標準時及び標準周波数の通報に関する作業部会)

## 2. 開催日程

2024年9月16日(月)~9月20日(金)

## 3. 開催場所

カザフスタン(アルマトイ) ノホテルアルマトイシティセンター及びリモート会議

## 4. 会合の位置づけ、参加者及び入力文書

WP 7A は、科学業務を扱う第 7 研究委員会(SG 7)の作業部会であり、標準時及び標準周波数の通報に関する事項を扱っている。

WP 7A は、J. Achkar 氏(フランス)が議長代理を務め、今会合では、表 1 に示す 4 つの Drafting Group(DG)が設置された。

今回会合は、32 か国の主管庁、2 の ROA\*や他団体及び ITU 事務局から合計133名が出席した。日本からは、表 2 に示す3名が出席した。

今回会合においては **23 件の入力文書** について審議が行われ、CPM27-1 対応として 4 つの WRC-27 議題の各責任グループに対してリエゾン返書 4 件、協定世界時(UTC)の通報技術に関する新報告書案のための作業文書 1 件及び ITU-R 勧告 TF.460 改訂のための作業文書 1 件の計 **6 件の出力文書** が作成された。

表 3 に入力文書一覧を、表 4 に出力文書一覧を示す。

\* :認められた事業体(Recognized Operating Agency)

表 1 WP 7A の審議体制

WP/WG	検討案件	議長/議長代理
WP 7A	標準時及び標準周波数の通報	Achkar 氏(フランス)
DG-1	CPM27-1 対応	Patten 氏(アメリカ)
DG-2	WPT に関する WP1A へのリエゾン	久保田氏(日本)
DG-3	UTC 通報技術に関する新報告書案	Arias 氏(フランス)
DG-4	ITU-R 勧告 TF.460 改訂	Lewandowski 氏(ポーランド)

表 2 日本からの出席者(敬称略・順不同)

氏名		所属
1	岩間 司	国立研究開発法人 情報通信研究機構 電磁波研究所 時空標準研究室
2	伊東 宏之	国立研究開発法人 情報通信研究機構 電磁波研究所 時空標準研究室
3	久保田 文人	一般財団法人 テレコムエンジニアリングセンター

## 5. 審議の内容

### 5.1 CPM27-1 対応

入力文書: 7A/14(WP 7C)、15(WP 7B)、17(WP 4A)、19(WP 5B)、31、32、33(米国)

出力文書: 7A/TEMP/5、6、7、8

#### 〔結論〕

次のリエゾン返書を承認し、各 WP へ送付することとした。

- ・WP4A へのリエゾン返書(TEMP/5)
- ・WP5B へのリエゾン返書(TEMP/6)
- ・WP7B へのリエゾン返書(TEMP/7)
- ・WP7C へのリエゾン返書(TEMP/8)

- ・ CPM27-1 の結果を受け WP7A へ割り当てられた WRC-27 議題の寄与グループとしての対応等を検討する DG-1 を設置した。
- ・ DG 議長は米国の Patten 氏が担当。

#### 〔主な議論〕

- ・ WP7A では今会期、責任グループとなる議題は無いが、寄与グループとなる議題として議題 1.2、1.9 及び 1.15 がある。
- ・ 各議題について WP7A に割り当てられている各業務が一次業務か二次業務かを識別して当初米国からの入力文書は二次業務については干渉の保護を期待しなかったが、二次業務についても現状について記述して変更における影響について考慮してもらうよう記述を修正した。
- ・ 各リエゾン返書の要旨は以下の通り
- ・ 議題 1.2 は「13.75-14 GHz 帯(uplink)における固定衛星業務(FSS)の小口径アンテナを有する地球局の使用のための共用条件の改正の検討」で WP4A が責任グループである。
  - WP7A においては 13.75-14 GHz 及び隣接する 13.4-13.75GHz は標準周波数及び標準時の衛星通報業務(SFTSS)(地球から宇宙)が二次業務として割り当てられている。
  - 米国からの入力文書に対しエディトリアルな修正を実施。またフランスより 13.75-14 GHz は UTC 構築のための通信衛星を利用した時刻比較に使われているため、共用にはさらなる議論が必要との意見が示され、議論の結果、

この周波数帯が UTC 構築のための時刻比較に使われていることを明記し注意を促す文書を追加することとなった。

- リエゾン返書の要旨は以下の通り
  - ◇ 13.75-14 GHz 帯はすでに FSS に割り当てられていて SFTSS サービスとうまく共存していると認識しており、今後 FSS uplink アンテナサイズの変更によってもたらされる影響について無線規則(RR)第 26 条で提供されるガイダンスに基づき考慮するよう求める。
- ・ 議題 1.9 は「航空移動業務(OR)における HF 帯利用の近代化のための無線通信規則付録第 26 号の更新に係る適切な規制措置の検討」で WP 5B が責任グループである。
  - WP7A においては14,990 – 15,005 及び 15,005 – 15,010 kHz は標準周波数及び標準時の通報業務(SFTS)が一次業務にあたる。
  - 米国からの入力文書に対しエディトリアルな修正はあったが内容について異論無く合意された。
  - リエゾン返書の要旨は以下の通り
    - ◇ RR 付録 26 で定義されている 3,025 ~ 18,030 kHz の 10 個の周波数帯域のうち、14,990 – 15,005 及び 15,005 – 15,010 kHz に隣接する周波数帯域 15,010 ~ 15,100 kHz の HF 帯の使用を規定する規制変更した結果として生じる可能性のある帯域外放射の変化を考慮するよう求める。
- ・ 議題 1.15 は「月表面間及び月軌道と月表面間のための、宇宙研究業務(宇宙から宇宙)への新規分配または分配の変更の検討」で WP 7B が責任グループである。
  - WP7A においては 400.05 – 400.15 MHz (指向性なし)は SFTSS が一次業務、25.25 – 27 GHz は SFTSS(地球から宇宙)が二次業務にあたる。
  - 米国からの入力文書に対しエディトリアルな修正を実施。また米国からの指摘により、SRS、SFTSS に使われている周波数帯であることを明記し、注意を促す文書を追加した。
  - リエゾン返書の要旨は以下の通り
    - ◇ WP7A は RR 第 26 条で規定されるように SFTSS を保護するために、この周波数範囲を WP7B の調査における追加の SRS 割り当てに考慮しないことを提案する。
    - ◇ 併せて月面通信に対応するためにこの帯域での運用を変更した結果として生じる可能性のある帯域外放射の変化を調査して考慮することを求める。
- ・ 議題 1.19 は「4,200-4,400 MHz 及び 8,400-8,500 MHz の周波数帯における、地球探査衛星業務(受動)への全地域の一次分配の検討」で WP 7C が責任グループである。
  - 本議題について WP7A は寄与グループに任命されていなかったが WP7C から RR No. 5.440 によって SFTSS が宇宙から地球への送信に 4,200-4,204 MHz を使用する権限を与えられる可能性があることが指摘された。
  - 本議題に対しては参加国から入力文書がなかったため、DG 議長が課題 1.15 と同様に SFTSS で既に使用されている周波数帯であることを明記したパラグラフに修正し、作成した返書案に基づいて議論を進め、細かな修正のみでリエ

ゾン返書案が合意された。

- リエゾン返書の要旨は以下の通り
  - ◇ 4,200~4,204 MHz 周波数範囲での SFTSS の使用は、RR 第 26 条により周波数割り当て表の脚注を介して行われ、特に RR No. 9.21 の調整の対象となり、宇宙から地球への方向になる。
  - ◇ 4,200~4,400 MHz での地球探査衛星業務への割り当ては受動的であるため、WP7A は、SFTSS の方向性を考慮すると、SFTSS に関する限り、この周波数帯域の共有に変更が生じないことを確認するよう求める。

## 5.2 WPT に関する WP1A へのリエゾン対応

入力文書： 7A/24(WP1A)、28(ATDI)

出力文書： なし

### 〔結論〕

7A/24 は情報文書であり返書を送付する必要がないことを確認し No action で終了した。

- ・ WP1A から WP7A へ送られてきた WPT との干渉に関するリエゾンに対応するため DG-2 を設置した。
- ・ DG 議長は日本の久保田氏が担当したが、第 1 回 DG の際は出席できず寄与文書提出元の ATDI の Mr. Mazar が代理で 7A/24 と 7A/28 について内容の説明を行った。

### 〔主な議論〕

- ・ ATDI から提案されたリエゾン返書案(7A/28)について 1 文ずつ検証を行ったが、米国 Patten 氏から検討が十分ではないのではということと 7A/24 とリエゾン返書案で内容がかみ合っていないことが指摘された。
- ・ 英国 Shemar 氏から明確なエビデンスが示されていないことが指摘され、入力されたリエゾン返書案全体について見直す必要が出てきた。
- ・ 7A 議長から 7A/24 で対象としているのは勧告 ITU-R SM.2110 であり、それ以外については対象ではないことが指摘され、Mazar 氏から 7A/24 に対するリエゾン返書を再度作成することが提案された。
- ・ 第 2 回会合では、米国 Patten 氏から、7A/24 では、22-25kHz を勧告に追加する提案があった点に関し、WP 1A で取り下げられたのであれば WP 7A としては結構なことでコメントする必要はないのではないかとの意見が出された。また勧告の詳細に関しての作業は WP1A が責任を持つべきであり、WP7A が要請なく検討することは適切でないと主張した。
- ・ 議論の結果、ATDI から 7A/28 を提出していた Mazar 氏は入力文書を取り下げた。また 7A/24 のステータスが For information であることから、7A/24 に対しては特段の返書を返さなくて良いという意見に集約された。
- ・ ATDI からのリエゾン返書 7A/28 は取り下げられ 7A/24 は情報提供であるということから No action ということで DG-2 は終了した。

### 5.3 UTC(協定世界時)通報技術に関する新報告書案

入力文書: 7A/13Anx2(議長報告)、7A/34(フランス)

出力文書: 7A/TEMP/4

〔結論〕

1件の TEMP 文書を議長報告書に添付し、継続審議とした。

- ・ WRC23 の決議 655(Rev.WRC-23)を受けて時刻信号の配信技術に関する新報告書の作業文書をまとめるため DG-3 を設置した。
- ・ DG 議長はフランスの Arias 氏が担当。

〔主な議論〕

- ・ 最初に議長報告に添付された 7A/13Anx2 について逐次確認。7A/13Anx2 は報告書のテンプレートとして目次案と 1 章の Introduction のみである。
- ・ 次にフランスから入力された 7A/34 について変更箇所を示しつつ 1 章ずつ確認を実施。7A/34 では 2 章の背景の一部と 2 章の各節の構成を提案。
- ・ ほとんどの内容について特にコメントなく承認された。議論が交わされたのは以下の 2 点
- ・ 2 章(背景)
  - BIPM の Tavella 氏から「2 章の勧告 ITU-R TF.460 の定義が現行のもので古いのでは」と指摘があったが、この章は背景であり現行の TF.460 で問題ないことで合意。その際にこの TF.460 がいつのものか識別できるようにすべきということで最終的にロシアからの提案で TF.460-6 とすることになった。
- ・ 2.2 節(時刻信号を配信するためのシステム)
  - WP7A 議長から「この節で項目分けされている配信技術には新しいものが足りない」という指摘があったが、フランスからはこの各項目は ITU-R 勧告 TF.1011 を基にしているという回答があった。このことから ITU-R 勧告 TF.1011 に掲載されている配信技術も古いので新しいシステムを取り込めるよう今後 ITU-R 勧告 TF.1011 にも検討を加えることになった。
- ・ 3 章以降はタイトルのみであり、特にコメントなく最後まで確認を終えた。7A/13Anx2 の時点ではテンプレート案だったが、今回の入力文書で 2 章など内容の記述が追加されたため今後は作業文書案として議長報告に添付する。

### 5.4 ITU-R 勧告 TF.460 改正

入力文書: 7A/13Anx3(議長報告)、7A/29(中国)、30(米国)

出力文書: 7A/TEMP/9

〔結論〕

1件の TEMP 文書を議長報告書に添付し、継続審議とした。

- ・ ITU-R 勧告 TF.460-6 を WRC-23 の決議 655(Rev.WRC-23)に従い改正するために DG-4 を設置した。
- ・ DG 議長はポーランドの Lewandowski 氏が担当。

### 〔主な議論〕

- ・ 最初に WRC-23 で改訂された Res.655(Rev.WRC23)について逐次確認を実施。その後、中国から入力された 7A/29 及び米国から入力された 7A/30 について逐次趣旨を確認。
- ・ DG の議論に先立ち、米国の Patten 氏から DG のスケジュールについて問われドラフト議長が作業プランを提示。作業プラン内で DUT1 の扱いについても含めた検討があり、ロシアの Aronov 氏から DUT1 はまだ残すべきとのコメント。これにフランスの Arias 氏からもロシアのようにまだ DUT1 を必要としている国があるかもしれないため、取り扱いは慎重にすべきとのコメントあり。
- ・ 前回会合でロシアからこの改訂案についてまだ十分に検討できていないためロシアとしては同意できない由コメントがあったため、前回議論した改訂部分の承認は保留となっていたが、今回ロシアが同意したため、議長報告に添付された作業文書 7A13Anx3 を用いて前回のフランスからの入力を含め改訂作業開始

### *considering*

- ・ 前回フランスから入力された修正であり、基本的に AA±BB 形式から AC-AD と周波数帯を明示する形式に変更したとの説明。
- ・ 関係する国際機関と役割等の追加等を実施。
- ・ これらの改訂は特にコメントなく承認

### *noting*

- ・ ここは新規に起こされた項目で主に ITU-R におけるこの勧告の位置付けや報時業務等について説明。
- ・ 前回会合でドイツからの追加修正を含め確認を実施。
- ・ コメントなく承認されたが、後から a)の勧告 TF.460 は勧告 TF.460-6 に修正した。

### *recognizing*

- ・ ここは新規に起こされた項目で主に ITU-R 以外におけるこの勧告と関係の深いことについて説明。
- ・ 前回会合でドイツからの追加修正を含め確認を実施。
- ・ ロシアの Aronov 氏から項目 9、10 と CGPM の決議が書かれているので項目 11 として WRC-23 の決議 655(Rev.WRC23)を入れるべきとのコメントあり。決議 655(Rev.WRC-23)ならば *noting* の方がいいのでは、という意見もあったが内容的に 11 に入れるほうが良いということとなり項目11を追加。
- ・ 上記の議論の結果、承認。

### *recommends*

- ・ オリジナルの項目 1 は内容で分割し、新たに項目 1～5 に分解。
- ・ 項目 1 については関連する Annex1 の改訂が終了してから検討。
- ・ 項目 2 では 100 マイクロ秒の根拠が問われ、出典を調査することに(Editor's note)
- ・ 項目6(オリジナルの項目 2)について削除の提案であったが前回同様ロシアの Aronov 氏から UT1-UTC に関連する部分については残してほしいという要望が

あり次回会合で検討することに。

## Annex1

- ・ 項目 A において BIPM の Tavella 氏らから UT1 は time scale ではないとのコメントがあり最初の 1 文を削除。
- ・ 項目 A で引用している報告 TF.2511 の参照元を *recognizing* 12 に修正(項目 11 が挿入されたため)
- ・ ロシアの Aronov 氏から UT 関連の定義分は削除となっているが、UT1 等の説明のため残した方が良いとのコメントがあり、米国の Patten 氏も賛成意見を述べ定義の部分は残すことになった。
- ・ 項目 B(TAI)及び項目 C(UTC)については前半の旧定義文のみ残り現在定義している 2018 年 CGPM の定義 2 を Refer することとした。
- ・ 項目 D の DUT1 のパラグラフはそのまま残すことに。
- ・ 項目 D の 1 Tolerances の 1.1 でドラフト議長が 0.8 s を XX s に変更したところ 7A 議長の Achkar 氏から何故修正するのか、とクレームがあった。
- ・ この部分は修正提案が入ってないため元の形に復旧しこのことを Editor's note に記載した。
- ・ フランスの Arias 氏から項目 D の 1.3 は文書がおかしいとコメントがあり、この項目は CGPM2026 で決定されるであろうことを考慮し、最終的に項目 D の 1 全体を角括弧に入れて Editor's note を記載することとした。
- ・ 項目 D の 2 leap-seconds の削除について、7A 議長の Achkar 氏から 2022 年の CGPM の決議 4 と 2023 年 WRC の Res.655 によって今後削除することが決まっているので Editor's note にその由記載してそのままにしておいて構わないのではとコメント。
- ・ この後 TF.460 の改訂のタイミングと 2035 年までに予定されている UT1-UTC の拡大との関係をどうするか議論したがまとまらず、今後の議論の材料として残しておくが、項目 D の 2 全体を角括弧に入れて Editor's note を記載することとした。
- ・ ここまで ITU-R 勧告 TF.460-6 改訂案の議論を行ってきたが、7A 議長の Achkar 氏より議論を進めるにあたり ITU-R 勧告 TF.460-6 の改訂時期は WRC-27 を予定しているが、2027 年時点ではうるう秒調整がまだ存続している時期である。このため、改訂する勧告 TF.460-7 はうるう秒がある場合とうるう秒が無い場合の両方に対応する必要がある、というサジェッションがあり、再度改訂案の見直しを行った。

### *considering*

- ・ 特に再修正を必要とするというコメントはなかったが、元の修正案を提出したフランスからフットノートの部分で関連国際機関を追加した理由の説明があった。

### *noting*

- ・ 7A 議長の Achkar 氏より項目 a の勧告 TF.460 に「-6」をつけたが改訂後を考慮して必要かどうか再度検討してほしいとの依頼があり、米国なども一般的な内容なので改訂後も考えると無いほうが良い、と賛同して「-6」は外すことになった。

### *recognizing*

- ・ 米国の Patten 氏より項目6はすべて正しいのかとの問いかけがあり、Levine 氏らから信頼性と計量品質については正しいとコメントがあった。結果として本質的ではない信頼性とアクセシビリティについては削除することとなった。
- ・ BIPM の Tavella 氏から項目 11 の後に新たな tolerance が決定する 2026 年 CGPM の情報も追記したほうが良いと提案があり、項目 12 として追記することとなったが文章は TBD。

#### *recommends*

- ・ 米国の Levine 氏から項目1で SFTSS などは現状でも「as closely as possible」とは言えないのではないのかとの指摘があり、フランスの Arias 氏なども同意し、まずは[]で囲むこととした。また(see Annex 1)も[]で囲んだ。
- ・ conform の前に「maintain traceability to UTC」を入れることも提案されたが却下され、結局上記の[]で囲まれた 2 か所は削除することになった。
- ・ 7A 議長の Achkar 氏から conform を強調するため、should conform にしたらどうかと提案があり、米国の Patten 氏がネイティブの立場からここは recommends なのでより強調した shall conform とすべきであるとの提案があり、shall を挿入することになった。
- ・ ロシアの Aronov 氏から項目2と同様に項目5で精度が1桁上がっているがなぜかとコメントがあり、出典を調査し後日検討することになった。
- ・ 以上で、ITU-R 勧告TF. 460の本文についての確認は終了。
- ・ うるう秒やトランスなどの定義は Annex に書かれているが、うるう秒がある場合と無い場合の Annex 部分の扱いについてワークプランの見直しとともにしばらく議論された。例えば今回の米国の入力文書にあるように DUT1 をアップデートするならば新たなフォーマットを決める必要があるなどいくつかの問題が提起された。

#### Annex1

- ・ 項目Aで ITU-R 報告 TF.2511 のレファランスを上記の修正に伴い recognizing 12 から 13 に修正。
- ・ その他、前日までの修正を確認し Annex D の項目 1 の前で今回は終了。
- ・ その際にうるう秒がある場合と無い場合に対応するということで Annex D の項目 2 及び項目 3 につけられていた[]を外してうるう秒がある場合にも対応できるようにした。
- ・ 修正した文書は作業文書として議長報告に添付する。

#### 6. 今後のスケジュール

次回 WP 7A 会合は、2025 年 3 月 31 日から 4 月 10 日の日程でジュネーブの ITU 本部において開催予定である。

表 3 入力文書一覧

文書番号 7A/**	提出元	題目	担当 WG	出力文書 7A/TEMP /*
13	Acting Chair, WP 7A	Report of the meeting of Working Party 7A (Geneva, 19-22 March 2024)	DG-3 DG-4	4 9
14	WP 7C	Liaison statement to Working Parties 3M, 4A, 5A, 5B, 5C, 5D, 7A and 7B (copy to ICAO for information) - WRC-27 agenda item 1.19	DG-1	8
15	WP 7B	Liaison statement for action to Working Parties 3J, 4A, 4C, 5A, 5B, 5C, 5D, 7A, 7C and 7D, and for information to Working Party 1B - Relevant technical information to support studies under WRC-27 agenda item 1.15	DG-1	7
16	Chair, CCV	Liaison statement to Radiocommunication Study Groups and Working Parties (copy for information to ITU-T and ITU-D Study Groups)	-	-
17	WP 4A	Liaison statement to Working Parties 3M, 5B, and 7B (copy to Working Parties 5A, 5C, 7A and 7C for information) - Relevant technical information to support studies under WRC-27 agenda item 1.2	DG-1	5
18	WP 5B	Reply liaison statement to Working Party 4A (copy to Working Parties 3M, 5A, 5C, 7A, 7B and 7C) - Relevant technical information to support studies under WRC-27 agenda item 1.2	-	-
19	WP 5B	Liaison statement to ITU-R Working Parties 3L, 5C, 6A and 7A (copy to ICAO for information) - Request for relevant technical information to support studies under WRC-27 agenda item 1.9 in order to review Appendix 26 of the Radio Regulations to support modernization of high-frequency spectrum use in the aeronautical mobile (OR) service	DG-1	6
20	WP 5C	Reply liaison statement to Working Party 7B (copy to Working Parties 1B, 3J, 4A, 4C, 5A, 5B, 5D, 7A, 7C and 7D for information) - Fixed service characteristics for use in sharing studies under WRC-27 agenda item 1.15	-	-
21	WP 3J	Reply liaison statement to Working Party 7B (copy to Working Parties 1B, 4A, 4C, 5A, 5B, 5C, 5D, 7A, 7C and 7D) - Relevant technical information to support studies under WRC-27 agenda item 1.15	-	-
22	WP 3M	Reply liaison statement to Working Party 4A (copy to Working Parties 5A, 5B, 5C, 7A, 7B and 7C for information) - Relevant technical information to support studies under WRC-27 agenda item 1.2	-	-
23	WP 3L	Reply liaison statement to Working Party 5B (copy to Working Parties 5C, 6A and 7A for information) - WRC-27 agenda item 1.9	-	-
24	WP 1A	Reply liaison statement to Working Party 7A - Wireless Power Transmission (WPT) for Electric Vehicles	DG-2	-
25	WP 1A	Reply liaison statement to Working Parties 5A, 5B, 5C, 6A and 7A - Revision of Report ITU-R SM.2449-0 and Recommendation ITU-R SM.2129-0 regarding wireless power transmission for mobile and portable devices	-	-
26	Chair, CPM-27	Information on the preparation of texts for the draft CPM Report to WRC-27	-	-
27	ATDI	Draft revision of Recommendation ITU-R V.431-8 - Nomenclature of the frequency and wavelength bands used in telecommunications	-	-

文書番号 7A/**	提出元	題目	担当 WG	出力文書 7A/TEMP /*
28	ATDI	Draft reply liaison statement to ITU-R Working Party 1A (copy to ITU-R Working Parties 5A, 5B, 5C and 6A) - Revisions of Recommendation ITU-R SM.2110-1, Reports ITU-R SM.2449-1 and ITU-R SM.2451-1 - ITU-R Working Party 7A	DG-2	-
29	中国	Views on modification to Recommendation ITU-R TF.460-6	DG-4	9
30	米国	Elements towards a work plan for the revision of Recommendation ITU-R TF.460-6 - Standard-frequency and time-signal emissions	DG-4	9
31	米国	Draft liaison statement to Working Party 4A - Information regarding the standard frequency and time signal-satellite service for WRC-23 agenda item 1.2 on smaller antenna sizes for FSS uplinks at 14 GHz	DG-1	5
32	米国	Draft liaison statement to Working Party 5B - Information on the standard frequency and time signal service with regards to WRC-23 agenda item 1.9 on the modernization of Appendix 26	DG-1	6
33	米国	Draft liaison statement to Working Party 7B - Information on the standard frequency and time signal service with regards to WRC-23 agenda item 1.15 on lunar communications	DG-1	7
34	フランス	Proposed modification and additions to the working document towards a preliminary draft new Report ITU-R TF.[UTC_DISSEMINATION] - Content and structure of time signals to be disseminated by radiocommunication systems, including wired technologies	DG-3	4
35	CG, Hand-book	Report of the Working Party 7A Correspondence Group on Revision and update of Selection and use of precise frequency and time systems Hand-book	-	-

表 4 出力文書一覧

文書番号 7A/TEMP /**	題目	入力文書 7A/**	処理
4	Proposed modification and additions to the working document towards a preliminary draft new Report ITU-R TF.[UTC DISSEMINATION] - Content and structure of time signals to be disseminated by radiocommunication systems, including wired technologies	13, 34	議長報告に添付
5	[Draft] reply liaison statement to Working Party 4A (copy to Working Parties 3M, 5A, 5B, 5C, 7B and 7C for information) - Information regarding the standard frequency and time signal-satellite service for WRC-27 agenda item 1.2 on smaller antenna sizes for FSS uplinks at 14 GHz	17, 31	WP 4A に送付
6	[Draft] reply liaison statement to Working Party 5B (copy to Working Parties 3L, 5C, and 6A for information and copy to ICAO for information) - Information on the standard frequency and time signal service with regards to WRC-27 agenda item 1.9 on the modernization of RR Appendix 26	19, 32	WP 5B に送付
7	[Draft] reply liaison statement to Working Party 7B (copy to Working Parties 1B, 3J, 4A, 4C, 5A, 5B, 5C, 5D, 7C and 7D for information) - Information on the standard frequency and time signal service with regards to WRC-27 agenda item 1.15 on lunar communications	15, 33	WP 7B に送付
8	[Draft] reply liaison statement to Working Party 7C (copy to Working Parties 3M, 4A, 5A, 5B, 5C, 5D AND 7B for information and copy to ICAO for information) - Information on the standard frequency and time signal service with regards to WRC-27 agenda item 1.19 on possible allocations to the EESS (passive) in the 4 and 8 GHz bands	14	WP 7C に送付
9	Working document towards a draft revision of Recommendation ITU-R TF.460-6 - Standard frequency and time signal emissions	13, 29, 30	議長報告に添付